

第4回 中学校給食推進連絡協議会 会議録

- 開催日時 平成26年5月19日（月）
9:30~10:30
- 場 所 中原区役所5階 501会議室
- 出席者 座長：川崎市PTA連絡協議会 小原会長
副座長：教育)中学校給食推進室 望月室長
委員：小学校校長会 山崎校長 鈴木校長
中学校校長会 渡邊校長、伊藤校長
川崎市PTA連絡協議会 伊藤副会長、宮嶋事務局
川崎市教職員組合 倉田副委員長、阿部書記長
教育)野本企画課長、小田桐教職員課長、邊見健康教育課担当課長
森中学校給食推進室担当課長、北村中学校給食推進室担当課長
事務局：教育)中学校給食推進室 細見担当係長、新田担当、谷口担当
※欠席者：教育)市川指導課担当課長

■内 容（進行 座長 小原会長）

- 資料確認 —
— 座長挨拶 —

— 資料1説明（甲府市視察について） — （視察に行った委員より意見）

- 委 員 思ったより子ども達はスムーズであった。
- 委 員 中学生だと自ら考えて行動している。
食べている雰囲気も明るくてよい。
同じものを食べて、同じ時間を共有している。
体調により量を少なくしたり、おかわりしたり、残渣も少なくてよい。
- 委 員 生徒数は約300名であった。これを川崎市での大規模校でどう対応するかが問題。
- 委 員 非常にスムーズであった。ただし本市の大規模校である西中原中や宮前平中では配膳室の大きさに問題がある。
給食会計は学校がやっている。その苦勞が知りたかった。
- 委 員 思ったより温かかった。前からやっているからか慣れていた。
- 委 員 配膳員はスムーズに引渡しをおこなっていた。各クラス2名ついている。
民活であるが、かなり気を使って念入りに衛生管理をしていた。

- 委員 民設民営のシステムに興味があった。
トラックとコンテナで工夫をしていて、最初に設備投資をしっかりとっている。
川崎の規模に当てはめた場合、これを受ける業者がいるか。また配送に関して道路の混雑も川崎では考えなくてはならない。
生徒は手際よくやっており、衛生管理もしっかりしていた。違和感はない。
システムがしっかりとしていればやれる。
残渣もなく楽しみにしているようだった。
箸の持参もよいのではないか。コスト削減にもなる。
- 委員 あのシステムはよくできていた。
川崎市の規模になったとき、同じ手法が当てはまらずに工夫が必要と思う。
マイ箸は洗わない生徒もいるのではないか。
甲府市のスタイルを元に、川崎でどうするかモデルとしてはいいものを見せてもらった。
- 委員 確かに川崎市とは規模が違う。他の自治体についても見てもらったほうがいいと思う。
管理等については今後参考にすべきところは多かった。
- 委員 中学生本人が主体的に行動していた。
面白かったのは食後に歯磨きしている生徒がいた。本人に聞いたら自主的にやっているとのこと。
食事の内容については、たまたまこどもの日の行事食であったが、十分おいしく温かかった。センター給食でも十分にできるという考え方ができたと思う。

— 資料2説明（中間取りまとめたたき台案について） —
（事務局より説明）

- 委員長 全員喫食を「原則とする」とは
- 事務局 アレルギー対応が必要な生徒等については例外ということ
- 事務局 食育について。今まではお弁当であったが、これからは食育をさらに推進させるための給食。給食時間が食育の中心となると思う。
地産地消については、現在の小学校でも難しい。県内産を活用して、食育を推進する試みをしている。例として、年3回「かながわ産品学校給食デー」として神奈川県産統一献立をおこなっている。また牛乳については県内産。
- 事務局 中学校給食でも県内産食材の対応ができるのか、今後県と協議する。
市内産については、現在JAと協議中。

- 事務局 給食会の活用については、民間でも食材の調達はできるが、公がかかわりを持ち責任を持つということ。また、民間が調達するとそこに利益がかかわってくる。給食費として徴収できるのは食材費相当。
- 委員 実際には中学校では十分な食育ができていないのではないかと。小学校では実際に食べているのでその中で自然発生的に食育ができています。また栄養士も取り組んでいる。はじめから食育を前面に出して押しつけていくのではなく、給食を実施していく中で自然と出てくるほうが、中学校で受け入れられやすいのではないかと。地産地消については、小学校では給食便りを栄養士が作って紹介している。そこに乗せることによって活用できる。
- 委員 P T Aも献立決定委員会や物資選定委員会に委員として入っている。安心できることが最優先。ぜひ給食会を活用して欲しい。
- 委員 食器について、セパレート型を是非採用して欲しい。また、中央に仕切りのある甲府市で使用しているような食器も良いのではないかと。
- 委員 今、「三角食べ」ができていないので、それが見た目でもできるよう進めてもらいたい。
- 委員 実施手法について、センター方式はどのようなエリア分けでどれくらいの食数を想定しているのか。
- 事務局 現在それも含めて検討しているところ。
- 委員 実施時期について、28年4月に一斉スタートではないという認識でよいか。
- 事務局 28年度中に全校スタートで進めている。
- 委員 センター方式を基本として、親子方式や自校方式を含め実施するということか。
- 事務局 その方向で検討している。
- 委員 給食費については、手法が変わっても同じか
- 事務局 給食費は食材代なので同じ。
- 委員 給食費の設定に際しては、一食300円でも高いと思う人もいますので、地場産の使用も含め、保護者が納得できるような説明をして欲しい。

委員 食育も含め人の配置が気になる。小学校に何人の栄養士がいるか知らないが、給食便りを家庭科の先生がやるわけにもいかないの、栄養士の配置について検討してもらいたい。

事務局 県の配置基準では、自校方式の場合、児童生徒数が550人未満では4校に1名、550人以上では1校に1名。センター方式の場合、児童生徒数が6000人超では3名、1501人以上6000人以下では2名、1500人以下では1名となっている。
センター方式の栄養士の場合、まずは調理場で調理の衛生管理を行ってから学校へ出向いていくことになる。

委員 以前視察に行った自治体では、教育委員会が給食便りを作っていた。そういうやり方もあるのでは。

室長挨拶

10時30分 閉会